

スターフライヤー、全日空と羽田—福岡線でもコードシェア開始

スターフライヤーと全日空は 8 日、2014 年 2 月 1 日搭乗分から、スターフライヤーの運航する福岡—羽田線(1 日 10 往復 20 便)でもコードシェアを開始すると発表した。

スターフライヤーと全日空はは 2005 年に業務提携し、スターフライヤーが運航する路線のうち、2007 年から北九州—羽田線、2008 年から羽田～関空線でのコードシェアを行ってきた。両社は、福岡—羽田線でのコードシェア拡大で利用者利便の向上を図る。

また、今回のコードシェア便はスターフライヤーによる運航のため、全日空便名で予約した場合でも、羽田空港第 1 ターミナルでの出発・到着となる。

(レスポンス)11/8

<http://response.jp/article/2013/11/08/210328.html>

(ANA プレスリリース)11/8

http://www.ana.co.jp/pr/13_1012/13-ana-sfj1108.html

(スターフライヤープレスリリース)11/8

<http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/140120131108055939.pdf>

AIRDO、普通運賃値上げの方針、背景に燃油高騰

(日経によると)

AIRDOは、来年2月にも普通運賃を引き上げる方針を決めた。原油市況の高止まりや円安で燃料価格が上昇しているため。値上げ幅は路線ごとに異なるが、おおむね5～10%とみられる。月内にも国土交通省に申請する。普通運賃の引き上げは 2008 年以来。

(日経)11/8

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD070HH_X01C13A1TJ2000/

HAC、2013年9月中間決算、経常利益3600万円、通年で単年度黒字の可能性

北海道エアシステム(HAC)の2013年9月中間決算は、経常利益が事業計画より1100万円高い3600万円となり、前年同期の9千万円の赤字から黒字転換したことが7日、分かった。事業計画では、本年度通期で2100万円の経常損失を見込んだが、3期ぶりの単年度黒字の可能性が出てきた。田村社長が北海道道新聞の取材に対して明らかにした。

売上高は前年同期比12・6%増、事業計画比でも4・2%多い12億4400万円だった。

上半期の旅客数は同11・8%増の8万7093人で、毎月の利用率も事業計画を上回った。欠航が同6割減の44便にとどまるなど安定運航を続けたことに加え、7月に始めた日本航空との共同運航や丘珠―三沢線がいずれも好調に推移し、収益改善につながった。

(北海道新聞)11/8

<http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/502844.html>

全日空、羽田―石垣線、就航7カ月で搭乗者数10万人突破、搭乗率85.9%

3月31日に再開した全日空の羽田―石垣間の直行便が今日4日、搭乗者数10万人を突破した。この間の利用率は85.9%の高率を記録した。使用機材は、従来のボーイング737型機より座席数が120席多いボーイング767型機(270席)、1日1往復。

10万人突破について、提供座席の増加や観光客に利用しやすい運航時間設定も一つの要因とみられる。

八重山毎日によると、全日空石垣支店の菅隆宏支店長は「約7カ月での10万人突破は予想以上。利用率が7割でも高いが、8割以上となると非常に高い。今後も団体客の誘致などで8割台をキープできるようにしたい」と話した。

(八重山毎日)11/8

<http://www.y-mainichi.co.jp/news/23675/>

アジアナ航空、米子—仁川線、10月搭乗率 37.9%

アジアナ航空山陰支店は、10月の米子—ソウル便の搭乗率が37.9%と前年同期(52.0%)を大幅に下回ったと発表した。30%台は昨年12月(39.5%)以来10カ月ぶり。

同支店によると、利用者のうち日本人は905人で、前年同期比48.7%の大幅減。韓国人の利用者は662人で、前年同期比35.8%増。毎日新聞が報じた。

アジアナ航空は搭乗率アップに向け、日本人搭乗者25万人目を記念したイベントを9日に米子市内で開催する。また韓国では、11月中旬に鳥取便の利用を呼びかけるテレビ番組を放送する。

同支店は「深刻な状況だが、韓国への関心を向上させたい」と話している。

因みに、11月の予約状況は10月30日現在、42.9%(前年同期52.1%)、12月は13.0%(同27.8%)。

(毎日新聞)11/8

<http://mainichi.jp/area/tottori/news/20131108ddlk31020349000c.html>

春秋航空(LCC)、6年で純利益 16倍に拡大

(Kabutanによると)

中国版格安航空(LCC)の春秋航空が直近6年で純利益が16倍に拡大した。同社の広報部はこのほど、2004年に設立してから2年後の2006年から黒字化を実現し、その後も大幅な増益を続けてきたと発言。燃費や発着料金、旅客機の購入価格などがほかの航空会社とほぼ同条件の中で、徹底的なコスト削減が利益増につながっていると説明した。

春秋航空のコストはほかの航空会社に比べて20-30%安く押えられているほか、上海と高雄(台湾)間など主要路線が99%の乗客率を維持していることが一部の赤字路線を補っていると分析された。また、同社の広報部は、A株での上場を計画していると発言。停止されている新規株式公開(IPO)が再開されれば、即準備に着手する方針を明らかにした。

(Kabutan)11/8

<http://kabutan.jp/news/marketnews/?b=n201311080114>